

# Vol.10 正しいお酒の飲み方(番外編その1)

心と体にアドバイス

# 健康

# よもやま話



公益財団法人中国労働衛生協会  
理事長

宮田 明

1974年岡山大学医学部卒。医学博士。公立学校共済組合中国中央病院血液内科部長・副院長、尾道市立市民病院院長などを経て2015年より現職。日本血液学会専門医指導医、日本禁煙学会認定専門医など。現在は健康診断、保健指導・健康教育、社会貢献事業などを行う公益財団法人の理事長。座右の銘は「待てば海路の日和あり」「降りやまない雨はない」。

歴史上の酒豪たち

閑話休題、今回と次回は番外編です。酒豪として有名な歴史上の人物について古い順に、それぞれの健康状態と絡めて紹介したいと思います。

まずは上杉謙信。柴田勝家率いる北陸の織田勢を撃破し、関東へ出陣するため本拠の春日山城を出撃する二日前の1578年3月9日正午に劇で昏倒。すぐ昏睡状態に陥り、同日13日14時ごろ息を引き取りました。享年四八歳。

過度の飲酒が原因の高血圧による脳出血との説が有力ですが、晩年はよく食べたものを吐いたという話もあり、食道がん説もあります。いずれにせよ、過度の飲酒が影響していたことは確かでしょう。

次に水戸光圀。ドラマで有名な天下の副将軍「水戸黄門」です。水戸藩の二代藩主

で徳川家光のいとこに当たり、「大日本史」の編さんでも有名で、名君として知られています。

領民のために、今日の家庭の医学書に相当する「救民妙薬」という書物を刊行させていますが、皮肉なことに光圀自身は若い頃から大酒飲みと食道薬で有名で、六〇歳になっても浴びるように酒を飲んでいたのでこのことです。

七二歳になり、食欲がなくなつて酒量もとみに減り、食物がつかえる食道狭窄、症状が出ていたとのこと、食道がんだつたと考えられています。1700年に亡くなりました。過度の飲酒は食道がんの原因となりますので、そのためかと思われれます。

過度の飲酒はNO  
次に黒田清隆。薩摩藩出身

の第二代内閣総理大臣です。日本最初の内閣(第一次伊藤博文内閣)で農商務大臣を務めた後、首相に上り詰めました。普段は穏やかな性格だったとのことですが、ひどい酒乱としても世間に知られてっています。

飲めば大暴れして、伊藤や井上馨をぶん殴つたとか、泥酔して妻を斬殺したという説もあります。晩年は坐骨神経痛や高血圧があつたらしく、1900年8月23日朝に突然倒れ、間もなく絶命したとのこと、脳出血と考えられています。これも過度の飲酒による高血圧のせいだと考えるのが妥当でしょう。

最後に明治天皇。父・孝明天皇もお酒好きだったそうで、その性質を受け継いだものか、その「ご大酒」はよく知られています。日本酒を好まれ、

侍従たちを相手に毎夜大きなコップ酒をあおつたとのこと。シャンパンも大好きで、一晩に二本飲まれることもあつたそうです。

四七歳ごろより糖尿病を発症し、1912年7月30日0時43分、糖尿病性腎症による尿毒症のため、皇居明治宮殿内にて満五九歳で崩御されました。四〇度近い高熱もあつたそうで、感染症も合併していたのではないのでしょうか。

適度な飲酒は糖尿病の発病に抑制的に働く可能性も推定されていますが、多量の飲酒は「インスリン抵抗性」を高めてインスリンの効が悪くなり、2型糖尿病のリスクを上昇させるといわれています。明治天皇の場合も過度の飲酒により糖尿病が悪化し、次第に体の各臓器が不調を来したものと考えられます。

定期健康診断・生活習慣病予防健診・特定健康診査・各種がん検診

退職後の健康管理に げんきサポートクラブ 会員募集中



公益財団法人  
**中国労働衛生協会**  
福山市引野町5丁目14-2  
TEL:084-941-8211

HPで健康情報配信中!  
WEBから健診予約も可能です!  
URL: <http://www.churou.or.jp>

公式マスコットキャラクター  
ちゅうろうくん

